

エコアクション21

環境活動レポート

(2013年4月1日～2014年3月31日)

1. 組織の概要	P.2
2. 対象範囲	P.2
3. 環境方針	P.3
4. (基準年の環境負荷と)環境目標	P.4
5. 環境活動計画、環境目標の実績及び環境活動計画の 取組結果とその評価並びに次年度の取組内容	P.5
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P.6
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.6

2014年5月1日発行

株式会社ツルミコール

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社 ツルミコール

代表取締役 熊谷善次

(2) 所在地

認証・登録範囲: 本社・工場 神奈川県横浜市鶴見区寛政町25番3号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 青木 智之

担当者 海野 恵介

連絡先 〒230-0034 神奈川県横浜市鶴見区寛政町25番3号

Tel 045-511-4346

Fax 045-511-4349

E-mail Tomoyuki.Aoki@Tsurumicoal.co.jp

(4) 事業活動の内容

活性炭の製造

(5) 事業の規模

	本社・工場
売上高	11億円(2013年度)
従業員数(人)	45名
延床面積(m ²)	6,200m ²

2. 対象範囲

(1) 認証・登録対象組織

本社・工場(所在地は1. (2)に記載)

(2) 認証・登録対象活動

本社・工場で行なう事業活動(内容は1. (4)に記載)

3. 環境方針

株式会社ツルミコールの環境方針

基本理念

株式会社ツルミコールは、1939年に創業し、溶剤回収・ガス精製、浄水・下水浄化、空気浄化・脱臭用活性炭の分野で実績と経験をもつ活性炭製造メーカーです。

地球環境を守ることは全人類の使命の一つであることを認識し、活性炭製造と再生において環境保全と循環型社会に貢献することを目指します。

環境方針

1. 環境マネジメントシステムの推進

環境保全活動は、エコアクション21に基づいて取り組みます。

2. 環境に関する法律、規則、協定の遵守

国、地方自治体の環境関連法規を遵守します。

3. 環境負荷低減活動の推進

企業活動によって生じる環境に影響を与える環境負荷のうち、次の6項目について優先的に取り組み環境保全の継続的な改善に努めます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減(都市ガス・電力等)
- ② 廃棄物の分別管理と再利用による減量化
- ③ 再生による再資源化
- ④ 排水量の削減
- ⑤ 化学物質使用量の削減
- ⑥ グリーン購入を積極的に進める

4. 環境教育・啓発活動の推進

社員一人一人に周知し、環境意識を高め、自らが環境保全活動が遂行できるよう環境教育、啓発活動を展開します。

5. 環境コミュニケーションの推進

環境活動レポートはホームページで公表し、地域社会や地球環境に目をむけ幅広い観点から環境保全に努めます。

2013年4月1日制定

株式会社 ツルミコール
代表取締役 熊谷 善次 印

4. (基準年の環境負荷と)環境目標

環境目標	基準(実績)	年度目標	中期目標		
	2010年度 (通年)	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
1. CO ₂ 削減	1,175 kg-CO ₂ /t	3%削減 1,140 kg-CO ₂ /t	4%削減 1,128 kg-CO ₂ /t	5%削減 1,116 kg-CO ₂ /t	6%削減 1,105 kg-CO ₂ /t
①都市ガス 使用量削減	(生産量当り) 409 m ³ /t (862kg-CO ₂ /t)	3%削減 397 m ³ /t (837kg-CO ₂ /t)	4%削減 393 m ³ /t (828kg-CO ₂ /t)	5%削減 389 m ³ /t (819kg-CO ₂ /t)	6%削減 384 m ³ /t (810kg-CO ₂ /t)
②電力使用 量削減	(生産量当り) 667 kWh/t (279kg-CO ₂ /t)	3%削減 647 kWh/t (270kg-CO ₂ /t)	4%削減 640 kWh/t (268kg-CO ₂ /t)	5%削減 634 kWh/t (265kg-CO ₂ /t)	6%削減 627 kWh/t (262kg-CO ₂ /t)
2. 廃棄物排 出量削減	(汚泥) (生産量当り) 139 kg/t	7%削減 129 kg/t	8%削減 128 kg/t	9%削減 126 kg/t	10%削減 125 kg/t
3. 排水量 の削減	(生産量当り) 6.63 m ³ /t	3%削減 6.43 m ³ /t	4%削減 6.36 m ³ /t	5%削減 6.30 m ³ /t	6%削減 6.23 m ³ /t
4. 化学物質 使用量削減	(苛性ソーダ) (生産量当り) 22.3 kg/t	3%削減 21.6kg/t	4%削減 21.4kg/t	5%削減 21.2kg/t	6%削減 21.0kg/t
5. グリーン 購入	グリーン 購入金額 -	グリーン 購入金額 5%向上	グリーン 購入金額 6%向上	グリーン 購入金額 7%向上	グリーン 購入金額 8%向上
6. 環境配慮 製品売上増	活性炭売上高 製品売上高 1,144百万円	2%増 1,167百万円	2%増 1,167百万円	2%増 1,167百万円	2%増 1,167百万円

5. 環境活動計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容

環境活動計画	取組結果とその評価(13年4月～14年3月)			評価及び次年度の取組内容
	環境目標	実績	達成区分	
1. CO ₂ 削減	3%削減 (1,140 kg-CO ₂ /t)	7%削減 (1,057 kg-CO ₂ /t)	○	・再生工程の稼働状況見直しを行い、低減する。 ・来年度も各工程の稼働状況の把握を行い、削減を行う。
①都市ガス 使用量削減	3%削減 397 m ³ /t	7%削減 370 m ³ /t	○	・再生工程の稼働状況見直しを行い、低減する。 ・来年度も各工程の稼働状況の把握を行い、削減を行う。
②電力使用量削減 ⁽¹⁾	3%削減 647 kWh/t	3%削減 633 kWh/t	○	・再生工程の稼働状況見直しを行い、低減する。 ・来年度も各工程の稼働状況の把握を行い、削減を行う。
2. 廃棄物排出量 削減 ・篩下の再利用	7%削減 129 kg/t	13%増加 146kg/t	×	・再生不可の使用済炭を廃棄した為、目標未達。 ・再生不可の使用済炭量の把握し、廃棄物の削減を行う。
3. 排水量の削減	3%削減 6.43 m ³ /t	20%増加 7.7 m ³ /t	×	・洗浄品の増加や再生時の水使用量増加により、目標未達。 ・各工程の水使用量の把握し、排水量の削減を行う。
4. 化学物質使用量 削減	3%削減 21.6 kg/t	9%削減 19.6 kg/t	○	・環境に留意し、再生した結果、目標を達成した。 ・次年度も環境に留意し、再生を行う。
5. グリーン購入拡大	5%増加 224 千円	8%増加 242千円	○	・エコマーク製品の購入を推進した結果、目標を達成した。 ・次年度は事務用品以外のエコ製品購入し、目標を達成する。
6. 環境配慮製品の 売上増	売上高 2%増加 1,167 百万円	13%減少 1,102百万円	×	・昨年よりは増加したが、震災の影響で販売量が減少する。 ・次年度は新製品の開発を急務とし、生産金額の増加に努める。

○:目標達成、×:目標未達

注(1)購入電力のCO₂排出係数:0.463(東京電力)

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用される事項(施設、物質、事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(汚泥、廃プラ、廃油等)
騒音・振動規制法	空気圧縮機
消防法(危険物)	タール
横浜市生活環境保全条例	大気の汚染及び悪臭の防止に関する規制基準 敷地境界線における騒音の規制
下水道法	下水道への排水

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価

エコアクション21を構築して3年目として目標に向かって削減等を行った。今年は昨年度成功した再生工程の生産量に沿った炉の稼働を行った結果、CO2発生量が生産量あたりでの削減目標は達成できた。しかし、産業廃棄物の廃棄量や工業排水の量の削減は目標未達となる。

本年度、エコアクション21のノウハウを生かし、環境関連法規の遵守、まだ不十分であるが主要な環境活動は概ね実施できた。次年度は本年度の削減方法の検討を行い、昨年・本年度で行った各工程での生産量に即した炉等稼働の検討し、排出量削減を行う。本年度環境目標を達成できたCO2発生量の削減等は次年度の環境目標に関して変更を行わない。廃棄物発生量、排水量の削減に関しては、基準(2010年度)よりも多くなってしまったので、2013年度を基準とし、環境目標を設定、削減に努める。

次年度は活動方法の改善、変更を行い、今後、全社員が一丸となってシステムの充実と改善に取り組んでほしい。

(2) 見直しの結果

- ① 二酸化炭素の排出では、昨年同様、生産量に即した再生炉の停止等を行った結果、都市ガス使用量、電力使用量の総使用量は前年より若干多い。また、生産量は昨年度より若干減少したが、生産量当たりの排出量は目標を達成した。次年度は各工程での使用量の把握に努め、各工程毎の低減に努める。環境目標は変更しない。
- ② 廃棄物排出量では、昨年度同様、製品外品(篩上下)の有効利用に努めたが、再生不可の使用済炭の廃棄等を行った為、排出量が増加し、目標未達である。再生不可の使用済炭の廃棄量を把握し、削減に努める為、本年度を基準とし、環境目標は変更する。
- ③ 排水量の削減は、総排出量で昨年度より大幅に増加した為、生産量あたりでの排出量も多くなり、目標未達。次年度は各工程での排水量の確認、検討を行い、排水量の削減に努める。環境目標は本年度の排出量が大幅に増加した為、今後、本年度を基準とし、環境目標を変更する。
- ④ 化学物質使用量の削減は、昨年度同様、環境に留意しながら再生を行うことにより、目標を達成できた。次年度も使用済炭の再確認、再生条件の検討を行い、低減に努める。環境目標は変更しない。

- ⑤ 本年度は事務用品でのグリーン購入量増加を図り、目標を達成する。次年度は事務用品以外の購入量増加をし、目標を達成する。環境配慮製品で有る当社製品の売り上げは徐々に多くなってきているが、震災前まで売上が伸びず目標未達である。次年度は新製品の販売等で打破し、売上増を目指す。環境目標は変更しない。
- ⑥ エコアクション21のシステムを利用することにより、現在の環境に対する取り組み方法が確立できるようになってきた。現在、適用事項から振動・騒音関係、緊急事態につながり易い危険物管理(消防法)に万全を期すこととする。そして今後とも新たな法規制情報の収集に努める。